

平成 26 年度  
発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業  
(発達障害理解推進拠点事業)  
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (栃木県那須烏山市教育委員会)

1. テーマ

那須烏山市の全小・中学校の教職員に対して、発達障害の可能性のある児童生徒への支援スキル向上の研修機会を提供するとともに、各学校の支援体制の整備を図ることを目的に事業を実施した。

2. 問題意識・提案背景

那須烏山市においては、発達障害を抱える児童生徒への対応が大きな課題となっており、クラスの中で不適応を起こしたり、不登校状態に陥ったりしているケースもある。家庭環境の問題も多く、保護者への対応を含めた支援が必要不可欠となっている。市単独事業として、小学校低学年全クラスに「学級支援員」を1名配置しているが、配慮が必要な児童が複数在籍し、対応に苦慮している学校も見られる。また、「通常学級ユニバーサルデザイン応援事業」として、全小・中学校等への巡回相談を実施し、配慮が必要な児童生徒への支援方法を専門家よりご指導いただいているが、全ての教職員が共通理解を図る体制はあまり整っていない。

そこで、拠点校を中心に本事業を実施し、全ての教職員に発達障害の特性や児童生徒への支援の手立てを学ぶ機会を提供し、教職員の意識や専門性を高めると共に、校内での支援体制を構築することにより、児童生徒一人一人が生かされた学校づくりができればと考える。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名 (ふりがなを付すこと)
那須烏山市	烏山小学校 (からすやましょうがっこう)

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名 (ふりがなを付すこと)
那須烏山市	江川小学校 (えがわしょうがっこう)
〃	荒川小学校 (あらかわしょうがっこう)
〃	境小学校 (さかいしょうがっこう)
〃	七合小学校 (ななごうしょうがっこう)
〃	下江川中学校 (しもえがわちゅうがっこう)
〃	荒川中学校 (あらかわちゅうがっこう)
〃	烏山中学校 (からすやまちゅうがっこう)

#### 4. 拠点校における取組概要

拠点校教職員及び理解推進地域内の特別支援教育コーディネーターを対象に専門性向上研修会を2回実施した。テーマは教職員からニーズの高かった「個別の応援計画の作成」と「WISC-IVの結果を支援に生かす」という内容で、いずれも作新学院大学の高浜准教授、田口臨床心理士を講師として依頼した。

また、拠点校教職員との校内研修を3回実施し、クラスで配慮が必要な児童の様子やクラス全体の様子を観察し、具体的な支援方法などを作新学院大学の先生方から助言をいただいた。

児童への障害者理解推進については、学校生活全般で人権を意識した教育を行っていた。特に12月の人権週間には、親子で人権標語作りや校長講話などにより理解を深めた。

理解推進地域全体への普及として、地域連携会議を2回実施し、特別支援教育コーディネーターの事例研修や情報交換等を行った。8月にはNPO法人えじそんクラブの高山代表による特別支援教育講演会、特別支援教育コーディネーターを中心とした少人数のグループワークを行った。

平成26年度の研修プログラムについては、各学校の特別支援教育コーディネーターの役割を再確認し、各学校間の連携を深めたこと、平成25年度に作成した発達障害の専門性向上にかかる教職員向けのパンフレットを研修会等で有効活用し共有化を図ったことで、体系化されつつある。

#### 5. 主な成果

平成25年度から2年にわたり発達障害理解推進拠点事業を実施したことにより、通常学級の教職員の特別支援教育に対する理解が進んできた。

専門性向上研修会は、拠点校の教職員等40人が参加した。通常学級担任など普段研修にあまり参加できないことが多い教職員が、身近な場所で日々の授業で実践できる研修ができたことは、それぞれの指導の手立てのスキルアップを図れ、大変有意義であったと思われる。

また、拠点校の通常学級担任等関係者10人が参加した全3回の校内研修会では、対象児童や学級全体への支援の仕方、家族支援などについて学んだ。1回目で助言していただいたことを実践・検証し、2回、3回目で児童や学級の変化を確認し、ユニバーサルデザイン教育を実践していくことで、担任等の困り感が8割ほど軽減され、それに伴い、徐々に教室環境が落ち着いてきたように感じられる。

理解推進地域全体への普及は、教育委員会主導で理解推進地域連携会議を2回、研修を兼ねて実施した。各学校特別支援教育コーディネーター間の連携が深められ、先進的な取り組みを参考にしながら各学校の支援体制の整備が進んできた。

研修プログラムの体系化については、平成25年度から継続して成果のまとめのパンフレットを理解推進地域内全教職員に配布したことで、特別支援教育のマニュアルとして活用され、特別支援教育コーディネーター等の担当が替わってもスムーズに研修プログラムなどが引継ぎできるようになることを期待する。

## 6. 今後の課題と対応

拠点校を中心に2年間にわたり事業を実施してきたが、今後は、地域の各小・中学校において継続的かつ発展的に研修プログラムを進めていくことが望まれる。そのためには、各学校の支援体制整備に向け、拠点校の特別支援教育コーディネーターなどが助言者となり、各学校においては地域性や児童生徒の特性を把握し、独自性を持って取り組むことが必要だと考える。まずは、各学校でモデル的にクラスを選び、児童生徒への指導や教育環境づくりについて、各教職員が共通認識を持てるような研修会を実施していくことから始めていきたい。

また、特別支援学級（特に自閉症・情緒障害学級）に在籍する児童が、通常学級での交流学习を行う際の対応についても課題となっている。支援学級での学びを交流で生かせるような技術や、スムーズに交流学級に入っていけるような配慮について研究を進めていきたい。

地域住民への発達障害理解啓発はこれからも推進していく必要がある。各学校教職員が発達障害についてよく理解し、児童生徒のニーズに応じたユニバーサルデザイン教育を実践していくことで、保護者や地域住民への理解にも繋がっていくと考える。それと同時に、教育委員会等行政側は、広報やホームページなどで、ユニバーサルデザイン教育の実践について周知していくことや発達障害の正しい理解啓発に努めたい。また、今後も継続して教職員に各種研修の機会を提供し、児童生徒一人一人が生き生きと学校生活を送れるよう支援していきたい。

## 7. 問い合わせ先

組織名：栃木県那須烏山市教育委員会

- |             |   |
|-------------|---|
| (1) 担当部署    | 学校教育課すこやか推進室                            |
| (2) 所在地     | 栃木県那須烏山市大金240番地                         |
| (3) 電話番号    | 0287-88-6222                            |
| (4) FAX 番号  | 0287-88-2027                            |
| (5) メールアドレス | gakkohkyohiku@city.nasukarasuyama.lg.jp |